

2年目 Small Talk で一点突破  
これだけは！

2冊目の Small Talk ノートには、

- ・子供の発話を促す7の工夫
- ・既習表現 を貼って意識する

教材研究→授業→振り返り→改善→教材研究  
→授業→振り返り→改善…を日々の営みに。



6/20 中3出口につながる力

小学校で子供の思考が働く場面をつくり、既習表現を使ってやり取りする力を育てると、中学校で即興的に、相手の答えに応じた対話をする力につながる

中学であるべき姿をイメージして、今やるべきことをがんばろう、と納得。小中一貫教育の授業研修での学びより。



6/25 質問力を鍛えたい

子供の無反応な姿を「相手の話に興味を持って聞き、相手をもっと話したくなるように質問やコメントができる子」に変えたい F 先生。「何を？」「だれと？」「どこで？」「なぜ？」「どんな味？」「どうしたい？」「もしも…」など会話のタネを掲示。言葉の使い手として目指したい、日本語でも英語でも。



9/19 Go back to basics !

研究が進むにつれ、知らず知らずのうちに Small Talk をやるのが目的化してしまっていたある日、M 指導主事の一言。「Small Talk の目的と手段が入れ替わっていませんか？」私たちは何のために Small Talk をするのか。Small Talk の目的や意義を皆で確認し合って原点に戻ろう。

9/9 やってよかった模擬授業

研究授業前、授業づくりに悩む I 先生の背中を押したのは N 先生(7/10 登場)だった。「ぼくは自分が模擬授業をやってみんなからコメントをもらったことがよかったと思っている」かくして模擬授業はスタンダードに。You can do it!



7/10 N sensei was reborn.

英語が苦手な N 先生が模擬授業。子供役の先生達から厳しくもあたたかいコメントを受けて授業を修正、猛練習の末迎えた本番。「ノート2ページにわたる Small Talk をやり切った」「日本語を使わず沈黙に耐え、英語で語りかけた」「子供の話をよく聞いて取り上げた」の快挙ぶりに、「N 先生の生まれ変わった記念日に居合わせる事ができて嬉しいです」と指導主事。



学校中で Who am I?

「手がかりは、volleyball, America, dog, curried rice だ〜れだ？」誰かに話したくなるしかけを掲示版 English Corner に盛り込むと、子供たちは Do you like dogs? What sport do you like? などと教職員に尋ね回り、あちこちでコミュニケーションの花、満開。



振り返れば宝の山

「毎回の児童の振り返りにどんなコメントをしていますか？」について研修で共有。振り返りパスポートは、子供の学習改善、指導者の授業改善に役立つ形成的評価の宝の山。

「やり取りができた！」  
職員室、大いに沸く

M 先生が下準備や配慮を重ねた末、ついに A さん、やり取りをしてオリジナルピザを完成。ずっと応援してきた同僚たちも一緒に分かち合う。担任だからこそ分かる苦労と喜び。だから明日もがんばれる。



これからも ONE TEAM で

皆で力を合わせて取り組んだ研究が子供の姿に表れていることを実感。研究は終わっても実践は続く。子供たちの成長した姿を想像しながら…!



先生が変われば子供も変わる

T:授業で使う英語の割合が7割以上と答えた先生は54% (昨年度比+47pt)。

T:昨年度からの課題「児童の発話を促す7の工夫」の項目全て、「できる」「まあできる」が増えた

C:英語でやり取りするのは楽しいと思う子供はどの学年も大きく8割超 (+3pt)。

C:相手との会話をできるだけ続けようと工夫する6年児童は84% (+28pt) と増加。教員アンケートの見取りとも一致。



11/29 Naoyama sensei's Advice

単元を通して子供の意欲がどれだけ持たせられるかは、第1時のしかけが大切なポイント。

取り上げたいのは、「子供から遠くピンとこない題材」ではなく、「子供の興味・関心に寄り添った身近な題材」、めざしたいのは「うるし塗り」のような言語活動。1時間目からやり取りの中で新出表現に出会い、何度も何度もやり取りを重ねる中で、やがて語彙や表現が定着し、やり取りの中身に厚みが増していく。